

平成27年度 事業の状況

1 事業概要

当年度は、企画展として4月から7月まで「久坂玄瑞と幕末維新展」を、9月から12月までは「角屋のもてなし展」を開催し、「角屋のもてなしの文化」の普及に努めました。

美術館の公開日数は191日で前年に比べて2日増えましたが、前半の4月から7月までの1日あたりの入場者数は71人で前年に比べ12.2%減少しました。また、後半の9月から翌年3月までの1日あたりの入場者数も71人で38.7%減少しました。年間入場者数は13,630人（前年度18,442人）で26%減少、1日あたりの入場者数は71人（前年度98人）で27%減少しました。

前年度は「京の夏の旅」の波及効果があり、当年度はその反動が大きく、減少が避けられませんでした。

そのような中、入場収入を増やすため、休館日や休館中であっても、文化財の維持管理等の業務に支障を及ぼさない範囲で旅行会社の団体客の臨時公開等を行うとともに、「第11回島原[蕪村忌]大句会」にも会場を提供し文化財の活用に努めました。

寄附金については、文化財の保存、活用のために34件4,055,000円の浄財をいただきました。

事業活動は、次のとおり「保存及び維持管理」「継承保存」「公開」「調査研究」の各事業を実施しました。

(1) 保存及び維持管理

松の間縁側の風化が進み、棘による負傷事故が発生したことから、縁板の危険なところを研磨しました。また、臥龍松の庭と中庭の双方の黒文字垣が倒壊しかねない状態であったため、京都市の補助金を受け修繕を行いました。さらに、消防署から発火の危険があると指導を受けた空調室の木製分電盤を鋼製の分電盤箱に改修しました。

(2) 継承保存

春季鑑賞会は4月11日に太夫によるお点前を披露いたしました。秋季鑑賞会は10月17日に、京舞篠塚流の家元篠塚瑞徳師の振付で島原ゆかりの太夫の舞を上演し、歌舞音曲による時代風俗の継承保存に努めました。

(3) 公開

美術館の入場者数は、年間191日の公開で13,630人、そのうち有料入場者は、全体の90.3%の12,317人、無料入場者は9.6%の1,313人でありました。特別公開の見学者数は有料入場者の54.5%の7,435人でした。

また、「角屋の文化講座」を開催するとともに、ホームページを3回更新し、角屋の正しい認識の普及と入場者の増加に努めました。

(4) 調査研究

『角屋研究』第24号においては、練物番付と練物図特集号として「角屋保存会蔵練物番付等について」等の論文を掲載しました。

今後も公益財団法人として、文化財の保存と公開に努めてまいります。